

Title	ファツシヨの蓖麻子油制裁
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1928
Jtitle	史学 Vol.7, No.4 (1928. 12) ,p.158(624)- 158(624)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19281200-0158

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ファツシヨの蓖麻子油制裁

イタリーで素晴らしい否な寧ろ横暴を極めてゐるファツシヨ(イタリー語の普通名詞で『東』、結び束れた『束』といふ意味)の運動達成の手段としてヒマシ油制裁といふのがある。下井春吉氏の『ファツシヨ運動とムツソリーニ』中にはそのことが説かれてゐる。その言によると、ファツシヨの青年に依つてイタリーの政權がすっかり取られてしまふまで、換言すれば我が大正十一年の十月に至るまで、諸方で屢々社會主義者などと衝突して居つた頃に、ファツシヨの青年はマンガネロと稱する、棒切れと蓖麻子油を用ゐて制裁を加へた。マンガネロと言ふと、長さが一尺二、三寸から一尺五寸ばかり、上が小さくて先が大きく、ベースボールのバットの小さいの言はんよりは、寧ろ挿木と言つた方が適當である。挿木同様の紐の付いたのを一本持つて居る。これをあの下劑の中が一番猛烈なあの油藥りの蓖麻子油を平らな、しゃげた様な、ウキスキーの壺のやうなものに入れて、ズボンの右の後ろのポケットの中に隠して置く。これは法律では制裁のしやうがない。警察官の方では何ともかんと手附けやうがない。併し常識で考へると、國民の歩調を撥亂して國家を弱めやうとする不屈きな國賊といふやうなものを見ると捉へて制裁を加へる。押へ付けて置いて上顎下顎に手を掛けて、木を一本咬せて蓖麻子油半リットル即ち二合半餘り一度に飲ませるのである。之を一度に飲ませると、上を向いて居るので、嘔て吐出すからそこは丁寧だ、いとも懇ろに少しづつ飲せる。かく二合半餘りの蓖麻子油を少しづつ丁寧に飲ませてゐると、何時でも上の方で済まない中に下の方で始まる。始まるといふと四、五人で元氣よくバット引摺り起してやる。景氣よく引摺り起すと、バット力を入れた拍子に大爆發をやる。一度爆發したる後は手の付けやうもない。便所なんかへは行けぬ。そんな暇は無いのである。之を要するに一度始まると後は滾々として盡きざるもの、學術的に論ずるといふと、開放的に且つ繼續的に流下しつゝある。立上るといふと内股の所は温かき湯たきの如くにして、たらたらと流れて居るさうである。一足二足歩き出すと靴の中一杯になるさうである。是を名高い蓖麻子油制裁と言つてゐる。打通しに晝夜行はれる。それでどんぶりをすけたり、ばけつをすけたりして兎に角やつて居ると、一週間ばかりで源が枯れるさうである。(岡崎万里)